

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 5 月 11 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3491100396		
法人名	株式会社コラボケア		
事業所名	グループホーム彩りの家		
所在地	尾道市因島中庄町717-1		
	電話番号	0845-24-3450	
自己評価作成日	平成29年 3月15 日	評価結果市町村受理日	平成 29 年 5 月 22 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	平成 29 年 4 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

日本人にとって生活習慣の一部である入浴に重きを置き、檜風呂を設置しています。視覚・触覚・嗅覚で檜の温もりを感じることができます。特殊浴槽も設置していますので身体機能が不自由な方でも無理なく入浴できます。また終末期の入居者様のために看取り室もご用意しています。ご家族様と入居者様だけの空間を提供できる環境となっています。別棟には地域交流館があり、ご家族様との家族会や地域の方との連携を取る場として一躍を担っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

近隣には公民館や村上水軍城公園があり、お花見に行ったり、公民館の文化祭を見学する等、楽しみごとや五感刺激となる支援に努めている。又、事業所周辺には商店や美容院もあり、利用する事で馴染みの関係もでき利用者も地域の方が多く、馴染みの場所で馴染みの方と触れ合いながら、自分らしく過ごせる環境となっている。共有空間にはトイレが5ヶ所あり、落ち着いて利用出来る様細やかな配慮をされている。又、特殊浴槽もあり、一般浴は檜風呂となっていて温かさが感じられ、入浴が楽しみとなる支援に努め、血流促進と清潔保持に繋げる事を大切にされている。日々のケアに関しても利用者との会話を大事にし、その人の思いを汲み取り、個々のペースに合わせ、思いに添える様、全職員が共有し統一したケアを心掛けている。医療面に於いても看護師が毎週訪問され健康管理をされていると共に職員の中にも看護師がいる為安心である。地域との交流も積極的に取り組み、地域交流館を設置され、必要時活用していただき、事業所と地域が一体となり地域貢献、地域資源の活用に繋がられる様取り組まれている。開設2年であるが、近隣との協力体制も少しずつ深まっている。又、家族の訪問も多く、信頼関係も築かれ、地域、家族、事業所三者で利用者を支えられる事を目標に日々努力されている。特に工夫されている点に於いては、終末期に向けて、家族と利用者が心おきなく過ごせる看取りの部屋を設置する等、環境整備を大切にされている。和やかで家庭的な雰囲気のある事業所であり、今後、更なる取り組みに期待したい。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の意見を出し合い理念を検討し作成する 玄関・事務所・各ユニットに提示している また、スタッフミーティングにおいて、職員で読み上げ共有している	職員と共に考えられた理念を見え易い場所に掲示されミーティングで復唱し振り返る機会としている。迷いが生じた時には理念に立ち戻る様周知し日々実践に繋げていると共に常に理念を共有し、統一したケアをするよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、地域の行事に参加し、交流を図っている	清掃活動や地域の防災訓練に利用者と共に参加している。公民館の文化祭を見学したり、お祭りには御神輿が来てくれたり、運動会にも行く事がある。散歩時には挨拶を心掛け、顔見知りの関係ができる様努めている。地域の方々にも使用してもらえるよう地域交流館が併設されている。今では交流も徐々に広まってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	文化祭やお大師さんの接待等、地域の行事に入居者様も一緒に参加し、交流の機会を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している 市担当者、包括支援センター区長、ご家族様と交え情報交換等を行っている	家族複数名、区長、包括支援センター、ボランティアの方等の参加により、利用状況や行事などを報告し、立場の違う方々の貴重な意見が多く得られ、サービスに活かすよう努めている。消防署職員6名参加してもらい消防訓練を行ったり楽しみごとの行事と共に実施する事もあり、回数を重ねるごとに充実した会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の福祉課や包括支援センター等の連携により、介護サービスの質の向上や地域との関係が広がっている	困難事例や疑問点がある場合は出向いたり、電話等で、実情を伝え、アドバイスや情報提供等が得られ常に協力関係を築くよう取り組まれている。包括支援センターとの連携も図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる 玄関の施錠はせず、利用者様の思い通りに過ごせる環境を作っている	基本拘束はしない方針であり、玄関の施錠を含め拘束はしていない。やもう得ずリスクが生じた場合は家族や職員と話し合い、工夫をしながら対応していく方針である。できる限り行動を制止せず、職員間で連携を取り見守りで対応する様取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や、スタッフ間で話をする事で、虐待防止に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の理解は不十分であるため、研修等に参加や行政等の情報収集に努める必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を説明し、了承を得て契約を行っている 制度改定等があった場合は、再度説明をし同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族様に入居者様の状況報告等を行ったり、ご意見を伺えるようにしている	家族の訪問も多く、現状を報告する中で要望や意見を聞くようにしている。また、運営推進会議でも聴取に努めている。常に何でも言える雰囲気づくりを心掛け、家族との信頼関係を築き、忌憚のない会話から把握し、個々に対応すると共に運営にも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見交換等を行ったり、連絡ノートでも情報交換をしている また、出された意見等は管理者会議等で検討するようにしている	日々のケアの中やミーティング等で意見や提案を聞くように努めると共に職員連絡帳に気付きがあれば其の都度記録してもらい、会議等で検討し反映させている。個人面談の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に合った役割を持たせ、向上心を持って働けるようにしている また、職員と責任者はコミュニケーションを図り、何でも話せるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修をほぼ全員の職員が受講できる体制を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等の機会を通じて、他施設等との交流を深め情報を活かしている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談により、ご本人様・ご家族様の要望に対応できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、しっかりと話を聞き、より良いサービスが提供できるようにしている また、ご家族様とのコミュニケーションも大切にし、要望等のお話がしやすい雰囲気になるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向をしっかりと把握し、安心してサービスを受けることができるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切にしたり、生活を共にし、信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に寄り添い意向等も伺いながら、より良い関係が築けるよう努めている また、ご家族様のご協力も得ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人等の面会時には、ゆっくりと過ごしていただけるよう心掛けている	地域の方が多く、近隣の馴染みの場所に出かけたり、馴染みの理美容院を利用する等、また、家族の訪問も多く、家族と共に出かけたり、自宅へ日帰りや泊まれる方もおられ、馴染みの人や場所との関係が長く継続出来る様柔軟な支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれを把握し、声かけを行い、利用者様間の関係を築いていけるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話・来社相談や、お会いした時にも様子を伺ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の行動、言動、表情等を日頃から観察し、少しでも思いが把握できるよう努め、ご家族様からお話を聞くよう努めている	ケアをしながらの会話の中や表情、行動から把握する様努め、可能な限り思いに沿う様取り組まれている。食べ物(お寿司、とんかつ)の希望が出る。また、タバコが吸いたいとの要求が出る人には規則を守ってもらい対応している。困難な方には家族の協力や選択肢を出し本人本位に支援する様努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報、入居後の日々の生活の様子を記録し、把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のスペースで、ゆったりと生活ができるよう支援し、日々の生活に寄り添い把握ができるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題や意見を検討し、ケアマネを中心にその人に合った介護計画を作成している	基本情報や事前面談での希望、要望を基に暫定計画を立て、1ヶ月間の情報、ニーズや課題等を職員間で話し合い、担当者会議で検討し本計画を作成している。モニタリングや見直しは個々の状況に合わせた期間で定期的に行っている。家族にもその都度説明し承諾も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り連絡ノートで職員間で情報を共有し、気づきはその都度話し合っている 介護計画は個人カルテに日々記入し、課題に沿って進めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況、利用者様に合った対応ができるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域事業等へ参加し、楽しみながら繋がりがもてるようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはご家族様に付き添いをお願いして必要に応じて主治医に情報提供を行い、連携を図っている ご家族様が付き添えない場合は、職員が同行する	協力医療機関の往診が月1回、看護師が毎週訪問し健康管理がされている。かかりつけ医の方もおられ通院支援は家族対応となっている。歯科支援もあり毎週口腔ケアもされている。夜間や緊急時も連絡が取れる体制ができています。また、職員に看護師がいる為安心である。他科は協力医療機関からの紹介で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から情報交換を密に行っており、状態変化等あった場合は相談し、助言等得ている 常に連絡の取れる体制になっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供を行い、医療機関と連携を図っている 入院期間中も訪問したりし、現状・今後の方向性、退院等について話をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・ご家族様と話し合いをし、連携を図りより良い環境でケアができるよう、日頃より構築している	利用開始時、指針を基に説明し理解が得られている。状況変化によりその都度、家族の意向を聞き、家族、主治医、看護師等で話し合い、方針を共有しながら思いに沿った支援に取り組まれている。看取りの部屋も設置し、家族と水入らずで過ごせる配慮がされている。研修も看護師の指導の下、実施し、不安なく対応すると共に適切に出来る様取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにより、急変時にも速やかに対応ができるよう備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、消火器の訓練も行っている	消防署指導で年2回、通報、消火、避難等の訓練を実施している。運営推進会議の中で行い、参加者の総評や消防署からの総評等を得、次に繋げている。訓練のお知らせも地域にチラシを配布し呼びかけもしている。点検も定期的に行うと共に地域の防災訓練にも利用者と共に参加し、知識の向上に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を守り、その方に応じた声かけを心掛けている また、プライバシー保護や記録等の個人情報の取り扱いにも注意している	個々の人格を尊重し、上目線にならない様注意し、職員間でもお互いに注意し合い、プライバシーを損ねない対応に心掛けている。研修も実施し統一したケアをするよう周知すると共に記録等も適切に管理されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活での会話や表情等で希望や思いを探りながら自己決定ができるように促している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々決まった生活ではなく、それぞれの体調や気持ち等、ペースに合わせ穏やかに過ごせるよう支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容はもちもん、理容美容もご本人様やご家族様の希望に沿って行っている また、季節に合った服を着てもらっている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材・季節のイベント・誕生日ケーキ等、変化をつけている 時におやつを作ったりしている	個々の身体状況に合わせた形態で、食を促す声かけや支援をしながら、和やかな雰囲気 of 食事時間となっている。ミキサー食の方には食材の説明をしながらケアされている。できる方には下ごしらえや下膳等してもらい張りのある生活に繋げている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事が提供できるよう配慮している 水分量もチェックを行い、注意して少ない方は、間で少しずつ飲んでもらっている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、入居様にあった声かけ・見守り・介助を行っており、義歯も定期的に洗浄を行っている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン・身体機能を把握し・声かけし、トイレ誘導・排泄介助を行い、汚染等失敗の回数が少なくなるよう努めている	個々の排泄状況を把握し日中は声かけでトイレ誘導し、立位や座位をする事で機能維持と気持ち良く排泄できる為にもトイレでの排泄に取り組まれている。自立の方にはプライバシーに配慮し見守りで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示も受けながら、個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回と入浴日は決まったが、檜風呂と特浴がそれぞれに楽しんで、ゆっくり入れるよう工夫している	週2～3回、午後となっている。決められた時間で希望を聞き、思いに沿った対応をしている。特浴の設置や、一般浴は檜風呂となっていて、香りが良く、温かみがあり、楽しく入浴できる工夫をされている。入浴のない日には足浴をし、血行促進に努めている。拒否の方には声かけや工夫をしながら清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活状況・体調に応じて休息している 日中のレクリエーション等、生活リズムを作り、夜ゆっくり安心して眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員が把握できるよう、ファイリング閲覧できるように保管している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや好きなこと等役割を持ち、楽しくその人らしい生活ができるよう支援している ドライブ・散歩・地域の行事等へも参加し、気分転換を図れるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い季節は、ドライブ・散歩等へ出かけている	近隣の村上水軍城にお花見や散歩等に出かけている。公民館の文化祭に行かれたり、地域の防災訓練に利用者と共に参加する等、気分転換と五感刺激、楽しみごとの支援に努めている。進水式を見学に行く事もある。また、テラスや玄関先で気候が良い日には出来るだけ外気に触れる機会も持つよう努めている。。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いはご家族様より施設で預り、管理をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状等、希望がある場合は書かれる時の支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースのフロアには、皆さんで制作した季節の貼紙等を飾っている また、入居者様の居室入口や居室内にも塗り絵カレンダーやアクティビティ作品が飾ってある	皆さんで作成された季節を感じる作品が飾られている。また、外出時の写真や時を感じる手づくりのカレンダーも掛けられている。ソファも置かれ、好きな場所で過ごす事ができる。トイレも5箇所あり待つ事もなく安心である。室内も明るく清潔に保たれ、不快な匂いもなく、浴室も整理整頓ができています。食事の匂いが五感刺激となり家庭的な雰囲気の共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは席は固定せず、思い思いに過ごせるようにし、皆とコミュニケーションが図れるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や置物、慣れ親しんだ物を持ってきて、家庭に近い雰囲気になるようにしてもらっている ベッドの配置等、ご本人様の状況・状態に応じて配慮している	テレビや家族の写真、家具(タンスや椅子)等が持ち込まれ、その人らしさが感じられ、自宅とのギャップが無い様工夫し、落ち着いて過ごせる環境となっている。又、仏壇を持ち込まれている方やお花を飾られている方もあり、自分の家となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室・階段等が解かるように大きな字で表示している 共有スペースや居室には不要な物を置かないよう注意し危険防止に努め、本人ができる事・解かる事を活かし、支援環境と整える		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
		○	②利用者の2／3くらいの				②家族の2／3くらいと
			③利用者の1／3くらいの				③家族の1／3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある			○	③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②利用者の2／3くらいが			○	②少しずつ増えている
			③利用者の1／3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている	○	①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②利用者の2／3くらいが			○	②職員の2／3くらいが
			③利用者の1／3くらいが				③職員の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2／3くらいが			○	②利用者の2／3くらいが
		○	③利用者の1／3くらいが				③利用者の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2／3くらいが			○	②家族等の2／3くらいが
			③利用者の1／3くらいが				③家族等の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2／3くらいが				
			③利用者の1／3くらいが				
			④ほとんどない				

事業所名：グループホーム彩りの家

作成日：平成 29 年 5 月 20 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域とのつきあい 地域行事等の参加などで出向いての活動はできているが、ボランティアさん達の活動と呼び込むことができていない。	運動会やアクティビティなどのボランティアさんに来てもらい、活気や彩りのある生活を送ってもらう。	・運営推進会議で、地域のボランティア活動について話題にあげすすめてもらう。お茶や生け花など ・地域施設会で、ボランティア活動について他施設での取り組みを伺う。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。